



株式会社 ファルマ

弘前市北横町 19-1
Tel 0172-37-6016(代)

発行：編集委員会
印刷：小野印刷

■ 第 141 号 ■

原水爆禁止2019年 世界大会を終えて

ファルマ弘前薬局 立崎 天之介

8月6日(火)から8月9日(金)の3泊4日間、長崎県で行われた原水禁世界大会に参加しました。当日は、台風の前線が心配される中での出発式でした。青森空港ロビーにて、初めて全ての参加者が顔を合わせてくれました。私は不安と緊張とワクワクが入り混じった複雑な気持ちでしたが、崎野専務や工藤事務長、阿部課長補佐の熱心な撮影と見送りを受け、青森を後にしました。

長崎に到着した途端、ものすごい熱風に歓迎されました。初日のスケジュールは夕食交流会のみでしたが、会場につくまでの約30分は室内にいなければ汗が止まらないほどの灼熱でした。待ちに待った夕食は「長崎名物ちゃんぽん」でした。



ファルマの折鶴と一緒に



青森県のヒバクシャ国際署名数を発表しました

3日目の夜は全国の民医連による青年交流集會が開かれました。青森県代表のテーブルは山形代表の方々のテーブルと合同で、お互いに年も近いことから和気あいあいとした雰囲気での食事をしました。さすがにちゃんぽんは食べませんでした。いよいよ最終日。開会式と同じ会場で行われた閉会式には、さらに多い約5000人が集まりました。若い世代から当時を

た。2日目は個人的に一番楽しみにしていた平和公園の遺構巡りでした。幸か不幸か、天気は快晴で気温はピーク時で38度の予想とのことでした。朝8時半からスタートし、映像や資料で見たことのある平和祈念像や平和の泉を見て回りました。中には心が締め付けられるようなメッセージや当時の悲惨さを物語る石碑も数多くあり、参加者は自分も含めほとんど言葉を発することもできず歩き続けていました。

約3時間歩き続けた後の昼食はまたまた「長崎名物ちゃんぽん」でした。遺構巡りを終え、私たちは世界大会の開会式が行われる長崎市民会館体育館へ向かいました。会場前の路面電車の駅には人が溢れかえっており、少しづつしか前に進めないほどでした。開会式には延べ4000人が各地から集まり、各々の想いを世界に向けて語っていました。

長く濃い一日を終え、ホテルに戻ると疲れが一気にきたのか目が覚めた時には次の日の朝でした。3日目は事前に各自で選択している分科会に行きました。私は、第6分科会の「核兵器と原発」を選択しました。この分科会では、東京電力福島第1原発事故を軸に、未解決の現状と問題点を挙げ、原子力エネルギー依存からの脱却について議論がなされていきました。

3日目は事前に各自で選択している分科会に行きました。私は、第6分科会の「核兵器と原発」を選択しました。この分科会では、東京電力福島第1原発事故を軸に、未解決の現状と問題点を挙げ、原子力エネルギー依存からの脱却について議論がなされていきました。



青森県原爆被害者の会の田中正司副会長

3日目の夜は全国の民医連による青年交流集會が開かれました。青森県代表のテーブルは山形代表の方々のテーブルと合同で、お互いに年も近いことから和気あいあいとした雰囲気での食事をしました。さすがにちゃんぽんは食べませんでした。いよいよ最終日。開会式と同じ会場で行われた閉会式には、さらに多い約5000人が集まりました。若い世代から当時を

原水禁世界大会 弘前地区合同壮行会

ファルマ弘前薬局 水木 孝之

7月26日(金)ファルマ弘前薬局で原水禁世界大会弘前地区合同壮行会が開催されました。今年度は弘前地区代表者5名が長崎で開催される世界大会に参加します。ファルマから送り出すのは立崎天之介さんです。

最終日も「ちゃんぽん」でお腹を満たすことはできませんでしたが、心は思い出で満たされました。今回はこのような経験をさせていただきありがとうございます。

真を見るよりも、実際に体験された方のお話を聞くことができたのは貴重な機会でした。壮行会には今年もたくさんの方々が集い、職員が心を込めて折った千羽鶴を代表者に手渡し、原水爆禁止青森県協議会の谷崎嘉治会長のギター演奏に合わせて「折り鶴」を皆で合唱して代表者5名を激励しました。



参加の決意を熱く語る立崎天之介さん(中央)

青森民医連職場づくり交流集会

本部 課長 鈴木 健仁



ファルマ浪岡薬局の福士薬局長が発表しました

7月27日(土)花岡農村改善環境センターで行われた、青森民医連職場づくり交流集会に参加しました。最初に千鳥橋病院の山本一視院長の講演がありました。印象に残った言葉が三つあります。多職種協働、権威勾配、リレーニング。多職種協働とは、様々な職種が、問題解決に加わることです。多職種協働、権威勾配、リレーニング。多職種協働とは、様々な職種が、問題解決に加わることです。多職種協働、権威勾配、リレーニング。多職種協働とは、様々な職種が、問題解決に加わることです。

2019年度薬局活動交流集会

ファルマ弘前薬局 薬剤師 神 千穂美

7月6日(土)弘前プラザホテルにて、青森民医連2019年度薬局交流集会が行われました。全77名のうち、ファルマからは32名が参加しました。

講師に昭和薬科大学の長 南謙一教授を招き、『医薬品評価と薬害防止』、『民医連薬剤師に望むこと』を講義いただきました。薬害の歴史やD.I.業務を実践されてきたお話など興味深く、勉強になりました。特に「薬と毒の渡り」という言葉に胸を打たれました。医薬品を安全に使用するためには情報の

収集・評価・提供を常に実践していくこと、最新の情報から有効性・安全性・経済性の高い医薬品を患者様に提供していくことが重要です。日常業務だけでなく、薬剤師として医薬品の評価もなくてはならないと痛感しました。

演題発表では、弘前調剤センターの津川薬局長が「健康教室で地域ヘルスリテラシーの向上」のタイトルで、弘前調剤センターでの健康教室の取り組みを報告しました。



健康教室の取り組みについて報告しました

活動交流集会終了後は、夕食交流・新入職員歓迎会が行われました。終始和やかな雰囲気でした。報告ができました。

常に意識していかなければならないと感じました。各職場の職場づくりの報告では、ホワイトボードを使ったミーティングや、職場診断等、研修等で学んだ技法を取り入れている報告がありました。

私自身、今年1月に大阪で行われた全国の職場づくり交流集会にも参加して、山本院長のお話を聴いてきましたが、今回も大変勉強になった交流集会でした。

青森民医連 平和活動交流集会

本部 課長補佐 阿部 千佳子

7月25日(木)浪岡中央公民館で「青森民医連平和活動交流集会」が開催されました。

まず初めにヒバクシャ国際署名をすすめる青森県連絡会事務局の鎌田敦子氏による「ヒバクシャ国際署名の生命力と2020年NPT再検討会議に向けて」のテーマで講演がありました。核兵器を使用すると、死者や負傷者が出ることはもちろんですが、救済活動は事実上不可能になり、助けたくても助けに行けない状況におかれてしまうことや経済的な被害はその地域だけでなく世界的な規模で影響があること、さらには核爆発で気候の変動があることを話してくださいました。

世界唯一の被爆国である日本が核兵器禁止条約に不参加であることは許し難いことです。わたしたちがヒバクシャ国際署名をすすめることにより、「核

兵器のない世界」にしたいと思っています。

その後は、8月6日から開催される「原水爆禁止世界大会in長崎」の民医連参加者への壮行会が開催されました。それぞれの法人から激励の言葉と参加者の決意表明があり、ファルマでもファルマ弘前薬局の村上薬剤師からの激励の言葉を受けて、今年参加者のファルマ弘前薬局の立崎さんが熱い決意表明をされました。その後、各法人から折鶴の贈呈がありました。



講師の青森県連絡会事務局鎌田敦子氏

大間原発反対現地集会

ファルマ弘前薬局 薬剤師 菅原 実牙樹

7月14日(日)第12回大間原発反対現地集会に、ファルマからは6名参加しました。大間原発敷地に隣接する一坪共有地で集会は開催され、300人を超える参加者数でした。様々な短い挨拶を聞いた中で、特に印象に残ったお話しは大間原発では世界で未実施のフルMOX炉心を試みようとしていることです。日本は使用済み核燃料を海外で処理しても稼働しないと使用済み核燃料が溜まってしまいう懸念もあります。簡単に認めてはならず、今後も再処理工場稼働の問題を注視していく必要があります。

反対と記載されたマグロを背負って1時間程歩きをしました。参加者から「写真を撮らせて下さい」と「毎回ファルマはすごいね」と声を掛けられ、ファルマの行動力、活躍を実感できるものでした。まだ参加してない方は是非一度参加してみたいかがでしょうか。

その後のデモ行進は、近年まれにみる晴天で、原発



今回はめずらしく雨が降りませんでした

写真紹介

西北五健康まつり



とても暑い日でした

7月21日(日) 柏ふるさと交流センターで西北五健康まつりが開催され、ファルマ 一ツ谷薬局を中心にOTC商品の販売を行いました。とても天気が良く、試飲の冷やし甘酒が好評でした。

ファルマ綱領学習会第2弾

ファルマ弘前薬局 薬剤師 高橋 沙鈴

7月5日(金)と9日(火)の2日間に分けて、ファルマ綱領学習会が行われました。

元津軽保健生協専務理事で元青森民医連副会長を歴任した三浦昭さんを講師にお招きし、津軽保健生協の歴史を振り返りました。

2度の経営危機があったこと、医師不足ながらも医療を提供し続けたこと、

今に至るまでの道のりは決して平坦ではなかったことを知りました。どんな状況をも乗り越え、地域医療を支え続けることができたのは全ての根底に民医連綱領があったからだと学びました。

この先も地域の健康を守るためには、今回学んだ歴史や経験を生かし、民医連綱領に基づく医療を続けていきたいです。



津軽保健生協の歴史について話す三浦昭氏

第3回事務交流会に参加して

本部 阿部 由希子

7月3日(水)ファルマ弘前薬局会議室で第3回事務交流会が開催されました。

第1部ではまず、北海道・東北地協事務幹部学校に参加したファルマ弘前薬局の水木孝之さんより報告がありました。民医連事務職員としての役割とは何か、今後どのように行動していけば良いかなど、事務職員としての在り方を聴くことができました。

次に、一人ひとり、2018年度の目標の振り返りと2019年度の目標発表を行いました。目標を共有することで新たな刺激となり、達成するためには何をしなければならぬ

か、改めて考えることができたとても良い時間でした。

第2部では、石川社長より「事務職員に期待すること」についての講義がありました。民医連綱領と事務職員の役割について、綱領に基づき医療活動・民医連活動を行うと共に、最終的には経営を担うことができるよう、物事を本質的に捉え、考えることが必要だとお話しされました。

続いて、高松副社長より「民医連運動と経営」について講義がありました。民医連の特徴と社会保障制度についてのお話しがあり、「誰のために、何のために」を常に考えアンテナの

感度を上げること、「お任せ」ではなく主権者・主体者として目的、目標をもち活動していくことが大切だとお話しされました。

最後に、崎野専務より「理念経営と目標達成のための技術」について講義があり、経営理念の重要性や目標達成の技術などグループワークを交えながらお話しされました。会社の目的を明確にして会社と職員のベクトルを合わせる

ことが会社の存続には欠かせないことだとわかりました。また、人生をより良くするために決断力と行動力を身につけ習慣づけることが大事だと教えていただきました。



事務職員へ講義を行う石川社長(中央)

日本在宅薬学会学術大会 in 名古屋

黒石薬局 薬局長 大川 誠也

狭間メソッド、大川の薬剤師業務の基本はここにあり。この考えを提案した有名な狭間研至氏が大会長を務める日本在宅薬学会学術大会(7月14日(日)〜15日(月・祝))に参加しました。この学会は薬剤師のバイタルサイン講習会を開催するなど、現在の薬剤師業務に大きな影響を与えてきました。さらに0402通知により薬

全体を通して感じたことは、事務職員が顔を合わせることでできるとても良い機会でしたし、今後の働き方、行動の仕方のヒントをたくさんいただくことができました。目標達成のため、強い気持ちをもって良い選択をしていきます。

剤師の業務に線を引かれただばかりであり、また次の改定では投薬後フォローが間違いない含まれる現在の状況において、今後の動向を知る貴重な機会に1200人を超える参加者が集まりました。

会場は名古屋国際会議場は薬剤師になって初めて学術発表をした思い出の地、今回で3回目の訪問になります。遠くから見える会場は、最初に訪れた2年目の自分を思い出させ

てくれました。黒石薬局は狭間メソッドを実践していることから狭間先生の講演をどうしても直接聞きたいと思い、講演後は自分たちの活動が間違っていないかと大きなエネルギーをもたらすように思います。また口頭発表では褥瘡や医療材料など、より専門的な内容が多く報告され、普段の学術大会とは違った雰囲気を感じることが出来たのも大変良い経験とな

りました。この狭間メソッドを用いた黒石薬局Verを知りたい方はぜひ黒石薬局までいらつしやってください。管理者会議の報告では知ることが出来ない薬局の未来の姿があります。



思い出の地へ3回目の訪問

津軽保健生協板柳支部へ出張出前講座

7月28日(日)津軽保健生協板柳支部で出張出前講座を開催しました。講師はファルマ津谷薬局局長の佐藤局長で「お薬の正しい飲み方・使用方法について」をテーマに話しました。参加者は39名で、楽しくわかりやすかったと好評でした。



事例を用いてわかりやすく話しました。佐藤薬局長で「お薬の正しい飲み方・使用方法について」をテーマに話しました。参加者は39名で、楽しくわかりやすかったと好評でした。

写真紹介

弘前市暮らしの保健室へ出張出前講座



参加者全員からとてもわかりやすかったと好評でした。8月3日(土)清水交流センターで弘前市暮らしの保健室主催の出張出前講座が開催されました。参加者は8名で講師を務めた藤代薬局の木村薬局長は「お薬の相談」について話しました。「薬局の考え方に感動した」「気軽に相談できてよかった」とうれしい感想がありました。

2019東部仲町まつり



参加者は熱心に講義を聞いていました。8月11日(日)弘前市社会福祉センターで東部仲町まつりが開催され、弘前調剤センターの津川薬局長が「薬がいない生活習慣の作り方」をテーマに講義を行いました。参加者は36名で「とても参考になった」と好評でした。

わたしのお気に入り

本部 阿部 由希子

わたしのお気に入り、それはズバリ『お米』です。どんなおかずにも合わせることでできる万能の主食であり、毎日の食事には欠かせない存在です。

お米には健康的な生活に欠かせない栄養がたくさん含まれています。パワーの源となる糖質の他、様々な栄養素が含まれていて、栄養の宝庫とも言えます。なので、おかずと汁物を合わせてバランスよく食べ、さらに適度な運動も加えれば健康的な生活が送れるはずですよ。

しかし、大好きなお米を目の前にするとつい食べ過ぎてしまうのが現状です。大好きなお米をおいしく食べ続けるためにも、健康のご飯と付き合っていきたいです。

ちなみに、青森県には私と同じ名前の商品名のお米「ゆきこ(有機娘)」があります。田子町で有機栽培にこだわって作られています。もちもちとした食感でとってもおいしいお米です。見つけたら是非買ってみてください。



お米大好き!

♪ うまれました ♪



皐月ちゃん

5月22日(水)ファルマ浪岡薬局の雪田友莉恵薬剤師に女の子(皐月ちゃん)が生まれました。

また同じく5月22日にファルマ弘前薬局の佐々木夢さんに女の子(結衣ちゃん)が生まれました。おめでとうございます。



結衣ちゃん

青森県社会保障推進協議会定期総会・記念講演

本部 事務長 舘田 総子

7月27日(土)、アピオあおもりで青森県社会保障推進協議会第23回定期総会が開催され、第一部の記念講演に出席しました。講師は立命館大学の唐鎌直義教授です。「最低保障機能が脆弱な日本の社会保障制度―その現状―」と題し、EU諸国の社会保障制度と日本の制度を比較し、最低保障にも拘らず基盤が弱々しく、制度自体に矛盾が多くある

というお話がありました。日本の社会保障制度は、とりわけ高齢者分野に偏って給付されています。しかし、今私たちの周りでは働けるのに仕事や働く場がなく、困窮している方が急増しています。子どもへの貧困問題も含め若壮年層に対し「働けるから」という理由で救済制度が大変少ないのが現状だと教えてくださいました。若者や子育て・働き

世代にも保障を厚くし、各分野の世代間において差別と格差をなくすことが、権利としての社会保障が充実するのではと強く思いました。唐鎌先生のお話の最後に、日本の社会保障分野には、権威主義への傾倒から脱却し、対等な人間関係を築くことと、「草木国土悉皆成仏」の思想が重要だという内容に大変感動しました。



日本の社会保障制度について話す唐鎌直義教授

写真紹介

ファルマ弘前薬局 健康まつり

8月1日(木)ファルマ弘前薬局待合室で健康まつりを開催しました。第1部は薬剤師による「気になるむくみ」「健康食品とサプリメント」「健康と笑顔薬でサポート」についての講義と、事務職員によるダンスレッスンを行いました。第2部は大試食会と薬剤師による「ジェネリックとは?」「大切な人が認知症になったら」についての講義を行った後は、事務職員によるストレッチやフットケアを行い、みんなで楽しく学べる健康まつりとなりました。



モモンジャーと一緒にストレッチを行いました

健生黒石診療所 キッズパーク

7月23日(火)健生黒石診療所主催のキッズパークが開催されました。車イス体験や黒石薬局では調剤・監査体験などを行い、参加した15名の小学生は初めての調剤体験に楽しみながらも真剣に取り組んでいました。



初めて見る分包機に興味津々の様子

県連事務職員基礎研修

7月26日(金)県民福祉プラザで青森県医連事務職員基礎研修が開催され、本部の阿部課長補佐がビジネスマナーの講師として講義を行いました。参加者は接遇向上のため、電話対応の基本的な接遇について学びました。



電話機を使って講義を行いました

八戸医療生協へ 接遇セミナー講師

7月30日(火)八戸医療生協診療所待合室で感染症対策委員会主催の接遇セミナーが開催され、本部の阿部課長補佐が講師を務めました。およそ20名の参加者は熱心に講義を聴いていました。



真剣に話を聴く皆さん

もしもし検定4級受験

8月7日(水)ファルマ弘前薬局でももしもし検定を開催しました。ファルマからは2名の参加で、希望された津軽保健生協の職員3名も一緒に受験しました。皆さん、緊張した様子でしたが、忙しい合間に学習した成果を発揮しました。



緊張した様子の受験者の皆さん

医療事業協医療講演会

7月5日(金)ラ・プラス青い森で青森県医療事業協同組合主催の医療講演会が開催され、経済的事由による手遅れ死亡事例の紹介や民医連綱領と憲法についてのお話がありました。薬品メーカー・卸しの方々88名が参加し、「民医連の医療活動がよく分かった」「民医連綱領を聴いて良かった」などの感想がありました。



民医連綱領と憲法について話す青森県民医連の田代会長